2025年度中間期決算説明資料

大東銀行

（2025年11月現在）

目次

- １．2025/9期（中間期）の業績 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- ２．貸出金の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- ３．総預金+預り資産残高の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
- ４．自己資本の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
- ５．企業価値向上に向けた取組み ・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

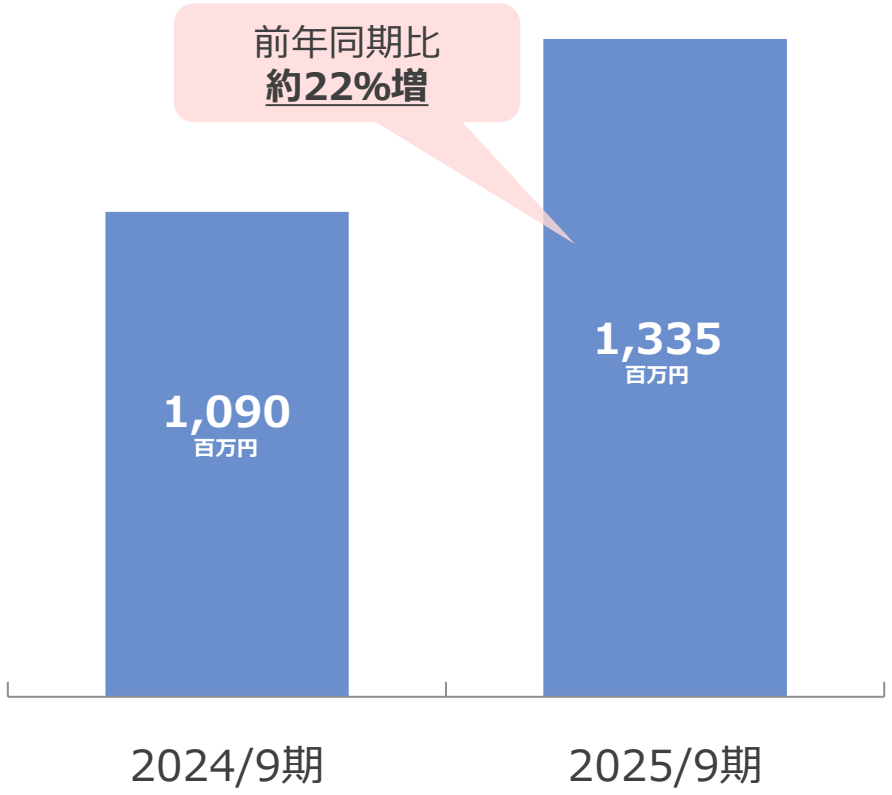
1. 2025/9期（中間期）の業績

貸出金利息及び有価証券利息配当金の増加などに伴い資金利益が増加したことから、中間純利益は前年同期比68百万円増加して9億49百万円となりました。

単体

（百万円）	2024/9期	2025/9期	増減
経常収益	5,821	6,912	1,090
資金利益（除く投資信託解約損益）	4,292	4,509	217
役務取引等利益	327	357	30
有価証券関係損益（含む外国為替売買損益）	88	△111	△200
経費（除く臨時処理分）	3,529	3,531	2
経常利益	1,289	1,364	75
中間純利益	880	949	68
コア業務純益（除く投資信託解約損益）	1,090	1,335	244
与信関連費用	45	32	△12
総資金利鞘	0.18%	0.21%	0.03%
お客さま向けサービス業務利益率	0.12%	0.17%	0.05%

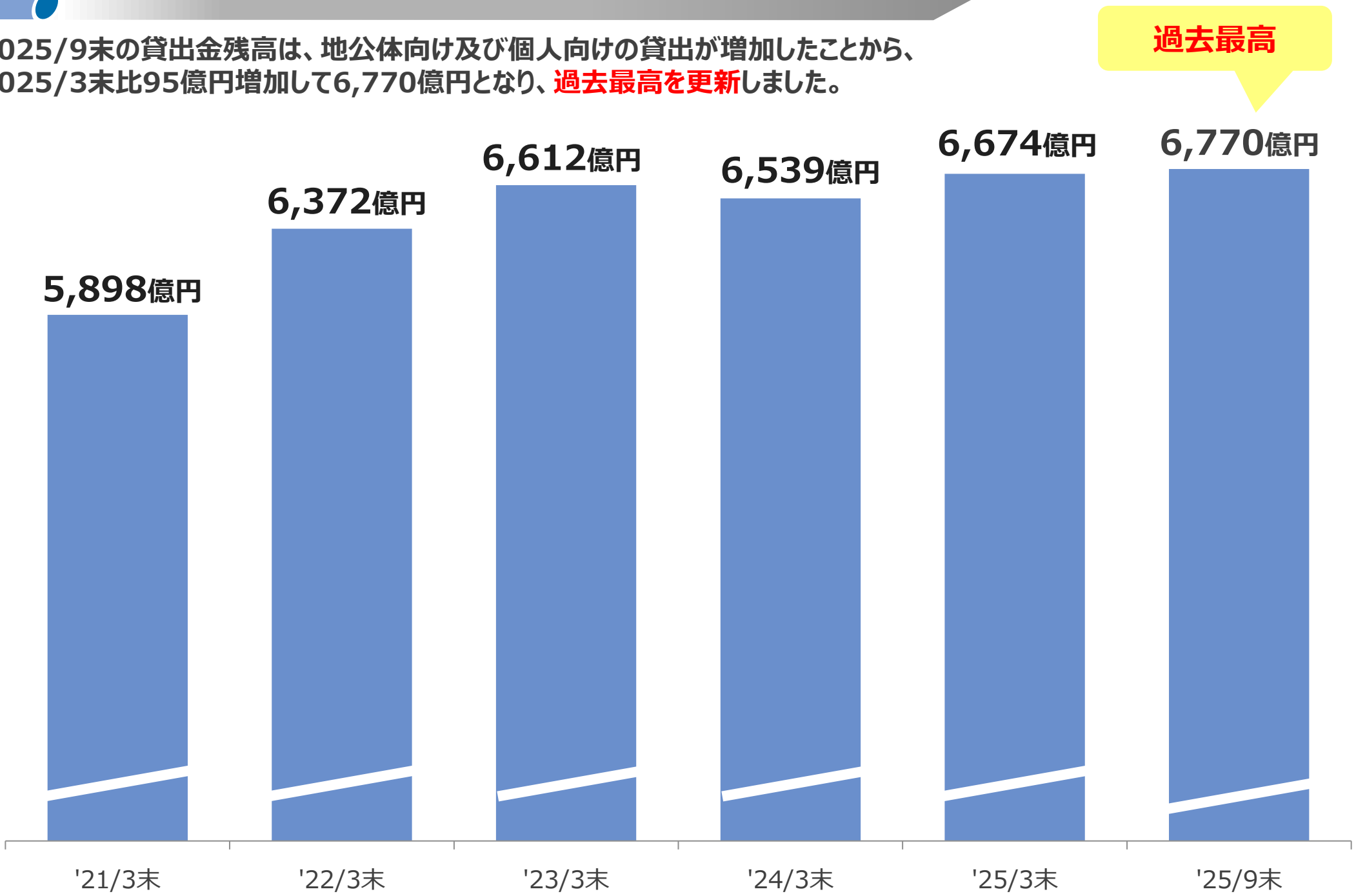
コア業務純益（除く投資信託解約損益）※



※ コア業務純益(除く投資信託解約損益)
貸出業務や役務サービスなど金融機関の本来の収益力をあらわす。本業のもうけを示す営業利益にあたる業務純益から、国債の売買損益、投資信託解約損益など、一時的な変動要因を除いたもの。

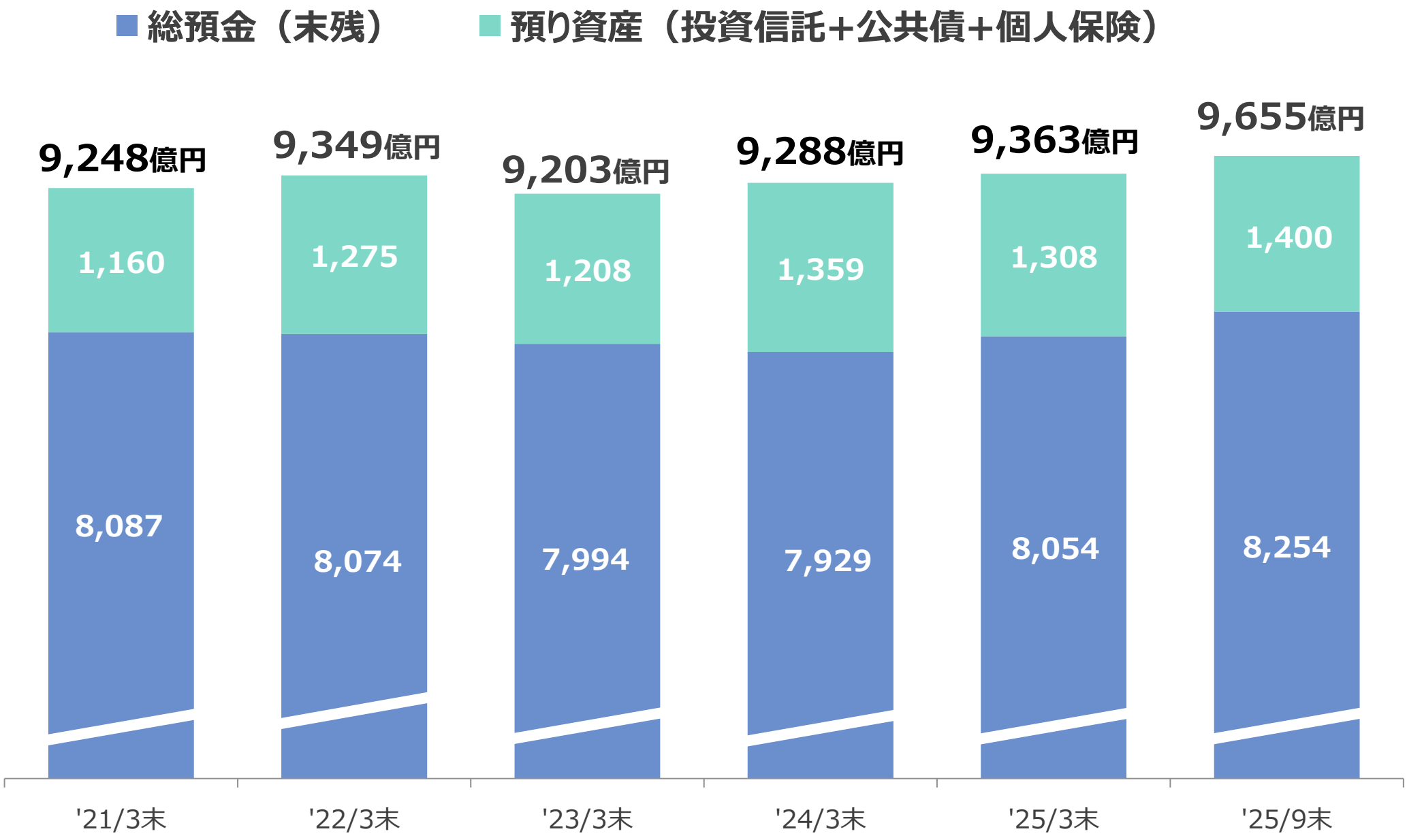
2．貸出金の推移（単体）

2025/9末の貸出金残高は、地公体向け及び個人向けの貸出が増加したことから、2025/3末比95億円増加して6,770億円となり、過去最高を更新しました。



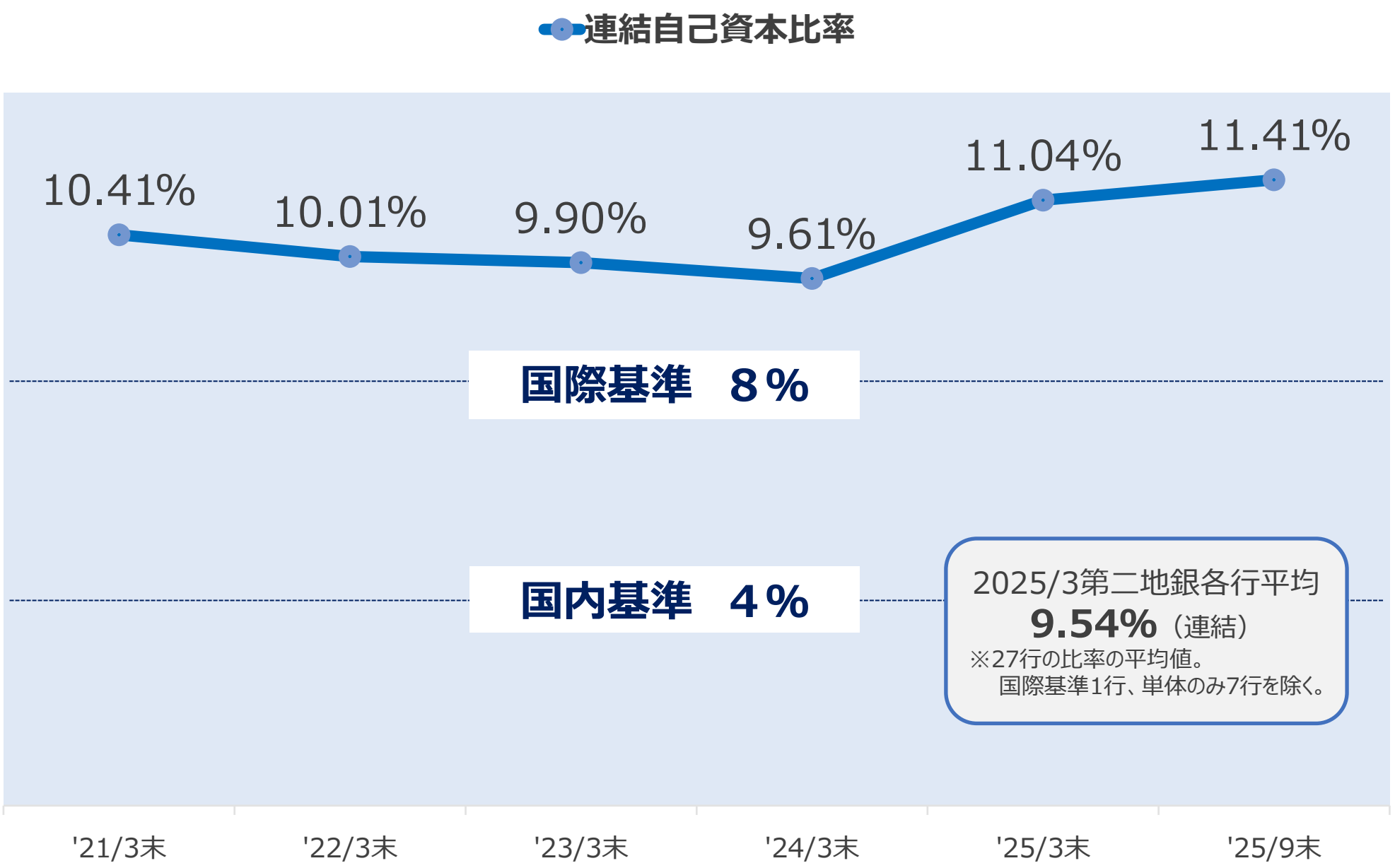
3．総預金＋預り資産残高の推移（単体）

2025/9末の総預金と預り資産残高は、総預金及び預り資産がいずれも増加したことから、2025/3末比291億円増加して9,655億円となりました。



４．自己資本の状況（連結）

2025/9末の連結自己資本比率は11.41%となり、2025/3末比0.37ポイント上昇しました。

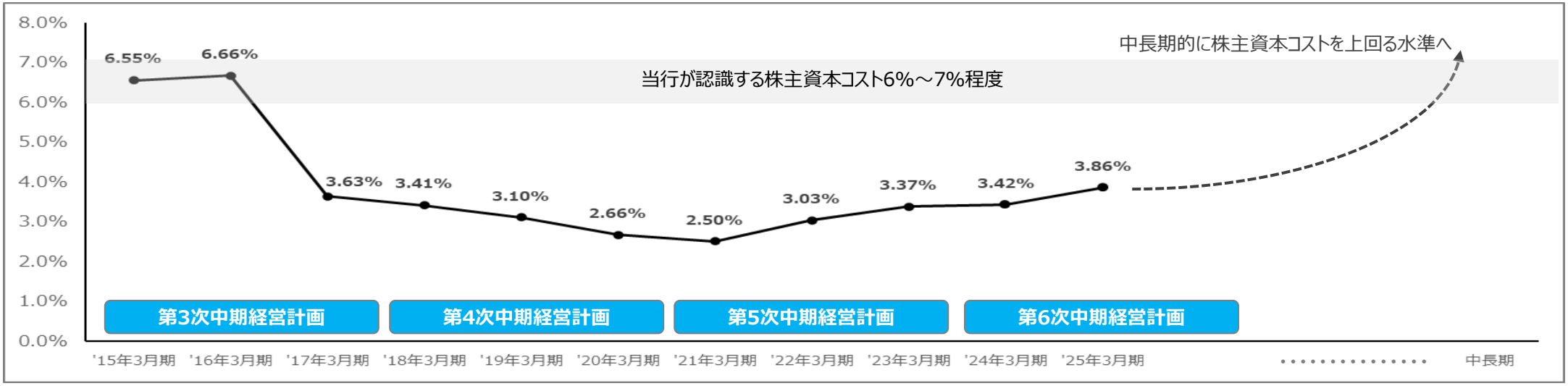


5. 企業価値向上に向けた取組み

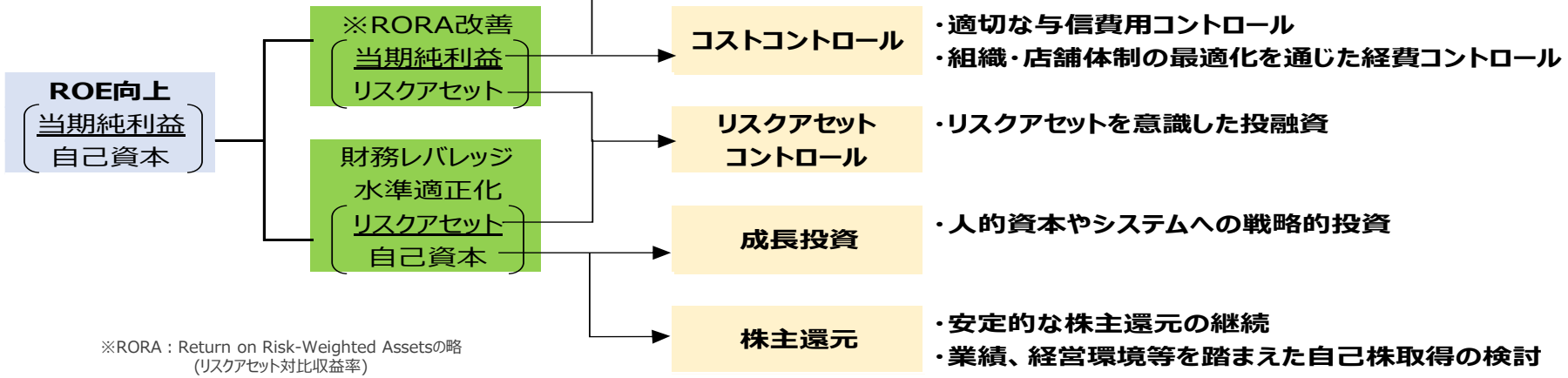
【株主資本コストおよび資本収益性】

➢ 当行のROE（資本収益性）は、株主資本コストを下回る状況が続いております。従いまして、第6次中期経営計画を着実に実行し企業価値を高めるとともに、中長期的には、株主資本コストを上回る水準を目指します。

当行の株主資本コストおよび資本収益性（ROE）



資本収益性（ROE）の向上に向けた取組み



【第6次中計における取組み内容】

- **収益力強化**
  - **・コンサルティング機能の強化**
  - **・役務収益の増強**
- **コストコントロール**
  - **・適切な与信費用コントロール**
  - **・組織・店舗体制の最適化を通じた経費コントロール**
- **リスクアセットコントロール**
  - **・リスクアセットを意識した投融資**
- **成長投資**
  - **・人的資本やシステムへの戦略的投資**
- **株主還元**
  - **・安定的な株主還元の継続**
  - **・業績、経営環境等を踏まえた自己株取得の検討**

※RORA：Return on Risk-Weighted Assetsの略
(リスクアセット対比収益率)

本資料は、当行に関する理解を深めていただくための資料であり、投資勧誘を目的としたものではありませんので、予めご了承くださいますようお願いします。

本資料に関するお問い合わせ先
大東銀行　経営部
TEL：024-925-3872（ダイヤルイン）